

MIE での雑誌つくりとその効果

文教大学情報学部メディア表現学科 清水一彦

本日の学生の発表は、MIE(マガジンインエデュケーション)の実証的実践研究の一環として行っている文教大学情報学部メディア表現学科清水ゼミナールでの授業を学生目線からまとめたものである。

一方、教員の観点からの MIE の教育効果の知見は以下である。

- ①「主体的・対話的で深い学び」に寄与
- ②情報の収集・加工・伝達能力の獲得
- ③ジャーナリズム思考の体得
- ④共同作業による主体性と協調性の育成
- ⑤取材経験による対人コミュニケーション能力の獲得
- ⑥雑誌の発行による社会的責任と影響力の実感
- ⑦問題設定能力が養われることで就職活動への好影響

MIE の教育実践としては2つの側面がある。

A. 知識修得、および知識修得の方法論を修得するための資料として雑誌を活用する。初等・中等教育では学校図書館での雑誌利用が成果を上げている。上記の①がおもにこれに当たる。大学も、高度な専門的雑誌を大学や公共の図書館で閲覧したり一般的な雑誌を購読することで成果を得ている。

B. 体験的教育の素材として雑誌をつくる。チームワークで自ら雑誌をつくることで、さまざまな教育的成果を得られる。上記②から⑥までがこれに当たる。

端的に言えば、雑誌から知識を得るのか、雑誌をつくることで体験的学修をするのかの違いである。A と B の比重や組み合わせは MIE の現場や目標とする成果の形によってさまざまである。この MIE での①から⑥までの成果とそこから総合的に養われる問題設定能力は、出版業界だけに留まらず、あらゆる職業で役に立つ。現代の人材にとって必須の能力と言えるだろう。それによって⑦の就活に役立つというきわめて明瞭な効果も引き出されるのである。

MIE の雑誌つくりについてのさらなる情報は、以下の論文をご参照ください。

清水一彦「MIE での雑誌つくり：教員・指導者用マニュアル 2 ～手描きラフの重要性と追加プログラム～」

『情報研究』 66 23-36, 2023 文教大学
<https://cir.nii.ac.jp/crid/1390013718468787712>

清水一彦「M I Eでの雑誌づくり：教員・指導者用マニュアル」
『情報研究』 64 19-34, 2021 文教大学
<https://cir.nii.ac.jp/crid/1390572175156573568>

清水一彦「大学での出版教育におけるムック作成の位置づけと意義 ～江戸川大学マス・コミュニケーション学科での事例～」
『江戸川大学紀要』 27 167-181, 2017 江戸川大学
<https://cir.nii.ac.jp/crid/1050282813197147904>

清水一彦「日本における出版での人材需要状況の変化と大学の出版教育」
『出版研究』 47, 69-84, 2017 日本出版学会
<https://cir.nii.ac.jp/crid/1390845713073737984>